

ツマジロクサヨトウによる 飼料用トウモロコシの被害と影響

畜産研究センター

ツマジロクサヨトウとは

ツマジロクサヨトウ幼虫の特徴



幼虫の頭部

幼虫の尾部

- ・ 2019年に国内で初確認
- ・ 体色は、緑色や茶褐色等で多種多様
- ・ 頭部にY字模様、尾部に4個の黒斑模様

ツマジロクサヨトウ幼虫による食害



成長点

飼料用トウモロコシ等の食害

- ・ ふ化した幼虫は、葉の表面を筋状に食害
- ・ 成長した幼虫は、作物の生長点深くに潜り、未展開葉を食害⇒**見つけにくい**

防除が困難⇒被害が拡大

食害が及ぼす収量への影響調査

薬剤防除と無防除において、食害被害による収量への影響を調査しました。

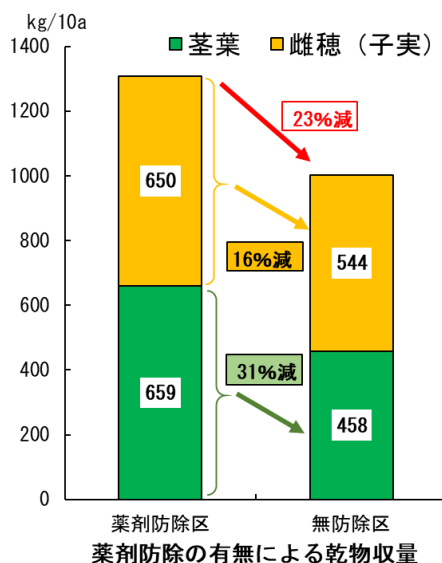
茎葉と子実の被害状況 【被害スコア：1（無）～5（甚大）】

試験区	生育ステージ毎の茎葉被害スコア			雌穂被害スコア 黄熟期
	生育初期 (5-6葉期)	生育中期 (9-10葉期)	収穫期	
薬剤防除区	1.0	1.0	1.1	1.3
無防除区	1.9	3.1	3.7	1.9

※今回の調査では、被害を極力抑えるため登録外薬剤を試験目的に使用しました。

無防除では生育に伴い被害が拡大し、収量は、茎葉30%、全体で20%以上減少しました。

→収量の確保には、防除対策が必要です。



今後の取組み

収量を確保するための、農薬を含めた薬剤による防除、飼料作物の栽培草種や播種時期等の作付体系を検討しており、引き続き安定的な自給飼料生産を支援します。

※本内容は、「飼料害虫ツマジロクサヨトウの防除対策事業」として、日本中央競馬会特別振興資金助成事業の支援を受けて実施したものです。